

令和8年度第1回札幌市食育推進会議

議 事 録

日 時：2026年9月4日（金）午前10時開会
場 所：TKPガーデンシティPREMIUM札幌大通
カンファレンスルーム7D

1. 開 会

○事務局（秋野歯科保健担当部長） 皆様、お疲れさまでございます。

定刻より若干早いですが、委員の皆様がおそろいですので、ただいまから令和8年度第1回札幌市食育推進会議を開催いたします。

会長による議事に入るまでの間、進行を務めます歯科保健担当部長の秋野と申します。どうぞよろしくお願いをいたします。

本日の委員の出席状況ですが、お手元の委員名簿にございますとおり、委員19名のうち、ご出席をいただいている委員が17名でございます。

なお、札幌市農業振興協議会から委嘱をする委員につきましては、現在調整中でありまして、今後選出されましたら、委員は合わせて20名となる予定でございます。

札幌市食育推進会議条例第7条第2項の規定により、委員の過半数の出席がございますので、当会議は成立していることをご報告申し上げます。

それでは、お手元の会議次第に沿って進行いたします。

会議の終了は12時とご案内しておりますけれども、11時30分頃の終了をめどとさせていただきたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

また、本会議につきましては、札幌市情報公開条例の規定により、市民へ公開することが原則となっておりますので、会議録を札幌市公式ホームページ上で公表させていただきます。つきましては、会議内容を録音、撮影させていただきますので、ご了承のほどをお願いいたします。

また、本日、報道機関が取材に入っております。会議の様子を撮影したいとのことでありまして、全体の様子を撮影させていただきますので、ご了承をお願いいたします。

それでは、まず、お手元の資料の確認をさせていただきます。

本日の資料といたしましては、事前に送付をさせていただいております会議次第、委員名簿、札幌市食育推進会議条例、札幌市附属機関等の設置及び運営に関する要綱、資料1として、令和7年度食育事業報告の一覧、資料2として、令和7年度食育事業報告の説明となっております。また、第4次札幌市食育推進計画の本書及び概要版につきましては、新しく委員に就任いただいた皆様へ送付いたしております。そのほかには、本日は、座席表と資料3から資料11までをお配りしております。

もし資料等で足りないものがございましたら、スタッフにお声がけをいただければと思います。

2. 挨拶

○事務局（秋野歯科保健担当部長） それでは、開会に当たりまして、札幌市保健福祉局ウェルネス推進担当局長の金綱から、皆様にご挨拶をさせていただきます。

○金綱ウェルネス推進担当局長 皆様、おはようございます。札幌市保健福祉局ウェルネス推進担当局長の金綱でございます。

皆様、本日は、大変お忙しい中を札幌市食育推進会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、平素より、本市の食育推進施策につきまして、格別のご理解とご協力を賜っておりますことに、この場をお借りしまして厚くお礼を申し上げます。

食は、私たちが生涯にわたって健全な心と体を培い、豊かな人間性を育むための根幹をなすものでございます。

本市におきましても、第4次札幌市食育推進計画に基づき、市民一人ひとりが生涯を通じて健康で豊かな食生活を実践できるよう、多様な事業に取り組んでいるところでございます。

本日の会議では、まず、第4次計画における昨年度の事業報告及び今年度の事業計画につきまして、その進捗状況をご報告申し上げます。皆様のご協力のおかげで着実に進展している取組がある一方で、社会情勢の変化に伴い、新たな課題も顕在化してきております。これまでの成果と今後の方向性について、ぜひ忌憚のないご意見を賜りたいと存じます。

また、国におきましては、食をめぐる情勢の変化や新たな課題に対応するため、食育基本法が改正されるとともに、この6月には第5次食育推進基本計画が策定されました。

デジタル化の進展や食の安全保障への関心の高まり、環境に配慮した持続可能な食生活の推進など、食育を取り巻く環境は大きく変化しております。

本日は、これらの国の動向とともに、本市における次期食育推進計画の策定に向けた今後のスケジュールについてもご説明を予定しております。

今後の札幌市の食育の推進に当たりましては、国の新たな方針をしっかりと視野に入れつつ、地域や関係機関・団体の皆様との連携を一層深めていくことが不可欠であると考えております。その上で、市民の皆様の健康づくりはもとより、食を通じた地域のつながりづくりや環境への配慮など、札幌ならではの食育の展開を目指してまいりたいと考えております。

本日ご出席の委員の皆様におかれましては、専門的なご見識やそれぞれの立場でのご経験に基づき、活発なご議論と貴重なご助言をいただけますようお願い申し上げまして、簡単ではございますが、開会に当たってのご挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

3. 出席委員紹介

○事務局（秋野歯科保健担当部長）　続きまして、本日ご出席の委員の皆様をご紹介します。

なお、所属団体の役員改選などに伴いまして、3名の方に新たに委員にご就任をいただいておりますので、併せてご紹介させていただきます。

まず、初めに、本会議の会長をご紹介します。

藤女子大学ウェルビーイング学部食環境マネジメント学科教授の菊地和美委員でございます。

北海道技術・家庭科教育研究会から新たにご就任をいただいております市立啓明中学校校長の福井浩史委員でございます。

福井委員におかれましては、北海道技術・家庭科教育研究会所属で前任の高橋正幸委員の後任でありまして、菊地会長から職務代理者として指名をいただいております。

ここからは、お手元の委員名簿に従いましてお名前をお呼びいたしますので、恐れ入りますが、その場でご起立をお願いいたします。

まず、札幌市食生活改善推進員協議会会長の朝倉博美委員でございます。

公益社団法人全国調理師養成施設協会北海道地区協議会幹事の池田尚志委員でございます。

札幌市環境アドバイザーの石塚祐江委員でございます。

市民委員の植田ゆかり委員でございます。

札幌市調理師団体連合会副会長の大江廣嗣委員でございます。

一般社団法人札幌市医師会の岡村暁子委員でございます。

一般社団法人札幌市中央卸売市場協会代表専務理事の片貝太委員でございます。

札幌市小学校長会、市立屯田北小学校校長の高橋美保委員でございます。

札幌市PTA協議会副会長で、新たにご就任をいただいております千葉香織委員でございます。

一般社団法人札幌市食品衛生協会副会長の中岡智委員でございます。

公益社団法人北海道栄養士会会長の中川幸恵委員でございます。

市民委員の野田郁実委員でございます。

一般社団法人札幌歯科医師会理事の針谷宜宗委員でございます。

札幌市立高等学校・特別支援学校校長会、市立札幌豊成支援学校校長の山田浩富委員でございます。

公益社団法人札幌消費者協会理事で、新たにご就任をいただいております吉田陽子委員でございます。

以上、17名の委員のご出席となります。

新任の委員の皆様には、あらかじめ机上に委嘱状をご用意させていただいておりますので、よろしくお願いいたします。

また、本日、都合によりご欠席されております委員をご報告いたします。

一般社団法人札幌市私立幼稚園連合会副会長の太田真理委員、一般社団法人札幌市私立保育

連盟副会長の水岡路代委員、以上2名の委員がご欠席となっております。

また、本日は、事務局として、ウェルネス推進部ウェルネス推進課食育・健康管理担当課長の中澤、ウェルネス推進課及び関係部局の職員が同席をさせていただいておりますので、よろしくお願いいたします。

なお、誠に恐縮でございますが、金綱局長は、この後、ほかの公務のため、ここで退席をさせていただきます。

〔金綱ウェルネス推進担当局長は退席〕

4. 議 事

○事務局（秋野歯科保健担当部長） それでは、これより議事に移ります。

菊地会長に会議の進行をお願いしたく存じますので、よろしくお願いいたします。

○菊地会長 菊地でございます。

本日の令和8年度第1回札幌市食育推進会議では、第4次の食育推進計画の進捗状況についてのご報告、それから、令和8年度の計画などを予定しております。

委員の皆様には活発なご意見をいただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議事に入ります前に、職務代理者の福井委員より、一言、ご挨拶をお願いいたします。

○福井職務代理者 皆さん、本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

私は、4月から北海道技術・家庭科教育研究会の会長になりました福井浩史と申します。

中学生で技術・家庭科という教科がありますが、そちらを研究している団体の会長を仰せつかっております。

私は、もともと技術の先生ですが、家庭科の先生との研究会で一緒に研究させていただいております。

今日は、皆様のそれぞれの知見を生かしていただきまして、ぜひ活発なご議論をいただければありがたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○菊地会長 ありがとうございます。

それでは、会議次第に従いまして議事を進めさせていただきます。

議題（1）の第4次札幌市食育推進計画の進捗状況について、事務局から令和7年度食育事業報告の説明をお願いします。

○事務局（中澤食育・健康管理担当課長） 令和7年度食育事業のご報告をさせていただきます。

事前にお送りさせていただきましたお手元の資料1、令和7年度食育事業報告進捗状況一覧、また、資料2の令和7年度食育推進事業の実施状況報告についてご説明いたします。

こちらの取組の内容につきましては、資料3の第4次札幌市食育推進計画をお渡ししておりますが、その中に写真つきで取組を掲載しているところでございます。

初めに、資料1をご覧ください。

資料1につきましては、食育関係課が令和7年度にどのような取組を行ったかをまとめたものでございます。

1ページから3ページは、生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進の基本目標に沿ったライフステージごとの食育の取組で、主に食生活に関すること、朝食や野菜の摂取などについて、関係課、関係機関や団体等と連携した啓発を行いました。

また、保育所や学校では、給食を通じた食指導や楽しく食べる取組を行いました。

高校生や大学生には食育の講話等を実施したり、成人や高齢者には企業と連携した取組を実施、各区では、乳幼児から高齢者までを対象に、栄養相談や健康教育により啓発、食育推進を行いました。

4ページから6ページ前半にかけては、食の循環や環境・安全を意識した食生活の推進と食文化の継承の基本目標に沿った農業との触れ合いや環境、食の安全・安心に配慮した食生活の推進等についての取組です。

農業の体験や地産地消、食品ロスの削減、エコクッキング、地場産物の活用を推進し、環境

に配慮した取組を行いました。

最後の6ページ後半は、食育推進体制の整備の基本目標に沿い、関係機関との連携による取組や食育ボランティアの育成支援等の取組を行いました。

続きまして、資料2をご覧ください。

こちらの資料は、資料1をまとめたものでございます。

令和7年度は、全部で107項目の食育事業に取り組みまして、結果は、目標を達成している二重丸(◎)が91項目、目標値には達していないが、目標値に向かっている丸(○)が8項目、変化なし、または、目標値を下回っている、遠ざかっている三角(△)が4項目、実施年ではないなどの理由により評価ができなかったの横棒(―)が4項目でございました。

全体としては、取組の8割以上が目標を達することができました。

令和6年度に比べ、企業との連携による食育推進事業の強化などにより、結果として二重丸が一つ増加しております。

一方で、ボランティアや人材育成につきましては、ボランティアの養成数が目標値に届かず、伸び悩んだ項目も見られたため、今後、PRや活動支援に向けたアプローチ方法の工夫が引き続き課題となっております。

また、資料にはございませんが、一昨年度、市民の野菜摂取不足の対策検討のために立ち上げた「さっぽろウェルネス『タベル』健康対策検討部会」からのご提案を受けまして、令和7年度の食育事業においては、SNSの活用、集客力のある場所での啓発、野菜レシピの発信、推定野菜摂取量測定器の設置、行政と企業の連携などを事業計画の中に反映させ、各種取組を進めてまいりました。

引き続きまして、これまでにご質問いただいた件につきまして、進捗状況等をご報告いたします。

昨年度の会議の際に、小・中学校の児童生徒向けの食育に関する調査につきましては、札幌市学校給食栄養士会が市内全校の小学5年生と中学校2年生を対象とした状況把握や分析を引き続き進めていると聞いております。

調査結果や分析については、会議などの機会を通じて皆様にお知らせしていただきたいと考えておりましたが、本日は午前中の会議の開催で給食の準備時間等と重なるため、今回は見送ることといたしました。いずれ、ご説明の機会を設けさせていただきたいと考えております。

最後に、リーフレットやレシピなどの広報資料についてですが、各種レシピ集や食育月間、野菜摂取強化月間の啓発資料につきましては、紙媒体の削減とデータ化、デジタル化、公式ホームページやSNS等を活用した積極的な情報発信を推進しております。

関係機関や企業等にもデジタルデータでの提供を基本とし、今後とも効率的かつ効果的なデジタル化を進めてまいりたいと考えております。

関係資料も添付しておりますので、ご覧いただけますと幸いです。

以上でございます。

○菊地会長 令和7年度の各食育関係課の取組につきましては、資料2のように、活動指標を達成できた二重丸が91項目、残念ながら、変化なし、遠ざかっている取組は4項目ということをご報告していただきました。

令和7年度の取組につきまして、委員の皆様から何かご質問、ご意見などがございましたらお願いしたいと思います。

○中川委員 進捗状況一覧の説明と今の状況報告をお聞きしまして、二重丸と丸で92.6%の達成率ということで、昨年度から比較すると上がっているの、よろしいのではないかなというのの一つです。

それで、評価結果の内訳ですけれども、評価できないのが3項目、4項目とあるのですが、評価できないのだったら、最初からこれに入れなくてもいいのではないのかなと思ったのが一つです。

それと、三角のところは、やはり次の計画に行ってもなかなか難しいものなのではないのかなと思ひながら見ていました。

○菊地会長 まず、二重丸の点、また、評価できないところは入れなくてもよいのではないかなというご意見もいただきましたが、事務局からいかがでしょうか。

○事務局（中澤食育・健康管理担当課長） 二重丸が増えていることにご評価いただきまして、ありがとうございます。

続きまして、横棒の評価ができないところは、第4次札幌市食育推進計画の中で主な取組として挙げていることから、削除するのめいかがかということでお示ししております。こちらにつきましては、現在は執り行われていないなどといった表記を残す意味でもお示しさせていただいているところでございますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、三角は、時代の波など、なかなか難しいこともございまして、状況も変わっている中、丸から三角になったり、ずっと三角だったり、いろいろ動きがあったところですが、そこが課題でもあり、今後も続けるのであれば、指標として適しているのかといったことも検討材料と考えております。

○中川委員 分かりました。

本当に、これを抜くと、大変しっかりやられているのですよね。だから、実際には、本当に100%に近いぐらい達成されているのに、この項目があるだけで、もったいないなと思ったという意見ですから、この項目があるのは全然問題ないと私は思っています。

○菊地会長 そのほか、何かご意見がございましたらお願いいたします。

○石塚委員 言い訳になるのか、説明になるのかはありますけれども、実は、4ページの下の方の容器包装簡素化イベントの開催が三角ですが、これにつきまして、私は、本当は二重丸だと思っています。

というのも、私は、このイベントの主催をしております、目標人数が400人に対しての118人ということで三角ですが、400人という数字を目標として出していた当時は、全国都市清掃会議でつくられる無料配布物がありましたので、ここで景品が配られていますよと呼び水的な感じで行っていたのですが、ここ数年、特にコロナのときに中断して、それ以降は配布をしていなかったのです。

多少、今でもアンケートにお答えをいただいた方には配付物はあるのですが、例えば、全国都市清掃会議でつくられたキャラクター付きの買物袋の配布はしていないのです。

こういったイベントは、北海道容器包装の簡素化を進める連絡会と札幌市の協働で年に6回行っておりまして、全部を足すと2,000人以上の参加があるのです。ですから、札幌市役所のロビー展示の118人という数字だけを評価して三角というのは、私は不本意なのです。これは、市役所のロビー展示だけを評価された数字です。

そのロビー展示には、昨年度、課長も来てくださりまして、見ていただいて、参加いただきましたが、昨年はこのような展示を市役所以外にも7か所で実施しておりますことを付け加えていただきます。

言い訳になりますけれども、よろしくお願いいたします。

○菊地会長 ただいま、環境に関して、札幌市環境アドバイザーの石塚委員からコメントをいただきました。ご説明いただきまして、ありがとうございます。

目標値の400人について、事務局からいかがでしょうか。

○事務局（國井減量推進係長） 環境局循環型社会推進課の國井と申します。

今お話がありました容器包装簡素化イベント開催の目標値ですけれども、石塚委員からご説明がありましており、過去の啓発品の配付などがあった時代の目標値が今も継続されているところもありますので、今後、今の状況も見ながら、見直しを検討させていただきたいと考えております。

また、同じ説明になってしまいますが、石塚委員からお話があったとおり、参加人数自体は少ないですけれども、ほかのイベント、あとは、こちらの札幌市役所のロビーのイベントの際にテレビ局が取材に入り、テレビでも放映されたこともありまして、人数以上の方にも周知・波及効果があったのではないかと考えているところでございます。

話が戻りますが、この人数につきましては、今後、見直し等を検討させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○菊地会長 そのほか、何かご意見等がございましたらお願いいたします。

○植田委員 進捗状況一覧の38番の企業との連携による高齢者を対象とした食育推進ですが、企業と関わっていくのは非常に有効な手段ではないかとは思いました。例えば、今回、

「さつモグ食育応援団」という資料が入っておりましてので拝見いたしましたら、これは登録の仕方もあまり難しくないということで、ハードルが下がったというか、こういう制度があることによって、二重丸が増えているのではないかと思ったので、とてもよい取組を行っていらっしゃるのではないかと感銘を受けました。

それから、先ほど63番の容器包装簡素化イベントのお話もあったのですが、企業を巻き込むときに、食べることのみ、食だけという限定をしないで、こういうイベントのときに、包装とタイアップしたり、絡めたりしていくと、さらに広がっていくのではないかと感じました。

○菊地会長 皆様、ただいまのご意見も踏まえて、何かコメントがございましたらお願いいたします。

例えば、今回、1枚目の1番、乳幼児期（0歳から）の食育の推進ということで、乳幼児からライフステージごとになっておりますが、特に幼児期から学童期への食育に関する感想、また、日頃お感じになっていることなどを札幌市医師会の岡村委員にお伺いしたいと思います。

○岡村委員 私は、市内で小児科のクリニックを開業しているのですが、その中で肥満外来も行っております。お母さん方と家でどのような食事をしているかという外来も行っているのですが、そのところからお話しさせていただきます。

やはり、子どもたちをめぐる環境が結構変化しているというのは皆様もご存じのとおりかと思うのですが、以前はお母さんがご飯をつくっているのが普通だったのが、今はお父さんもお母さんもつくっていらっしゃって、お父さんもかなり積極的に家事に関わっていらっしゃると思います。

外来でお話ししていても、お父さんから、どうやって食べさせたらいいのですかという離乳食の食べさせ方などの食事の話もよく聞かれるのですが、やはり初めてのお子さんだったり、お忙しくなってきて教科書的な基準から外れたときに、アドバイスを受ける場所がなかなかないということで、うちでお話ししておりますが、そういうことができればいいのかなと思います。

学校に関しては、今日、こちらに学校関係の委員方もご出席されていますけれども、栄養の先生などの学校の先生方を通じて、子どもたちにかなり食育がなされているのだなと日々感じているところです。

それから、お弁当レシピコンテストのレシピ集をいつも送っていただいているのですが、すごいと思うので、外来の待合室にいただいた資料を置いておきますと、お弁当をつくっている年代のお母さん方が手に取って見ていらっしゃることが意外と多いのです。

先ほどご説明の中でデジタル化というお話がありましたが、最初に紙媒体のものを手に取って見るということが意外と行われているので、デジタル化も大事ですが、まずはぱっと紙媒体のものをいただいて、興味のあるレシピをお父さん、お母さんに二次元コードで読み込んでいただくことがいいのかなと思いますので、紙媒体も少し残していただけたらと思います。

○菊地会長 今、お弁当のレシピの話が出ましたが、こちらにある紙の8月の野菜摂取月間のレシピがデジタルでもありまして、本学の学生に配信しましたところ、スマホでも見られてすごくいいという意見があり、また一方、違う大学に行ったところ、委員がおっしゃったように、こちらが掲示板に貼ってありましたので、やはり紙媒体とデジタル化の両面のよさがあるように聞いておりました。

もう一人ぐらいお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○千葉委員 私は子どもがいるのですが、お互いに仕事をしているので、毎日、朝、主人と協力しながら弁当をつくっています。

先ほど委員の話でも出ましたが、食育のお弁当レシピコンテストは、毎年、私の子どもたちも出していて、今年も子どもと一緒に近所の方からいただいた野菜をメインに作りましたが、そういう関わりもすごく大事だなと感じています。

今、岡村委員も言っていましたけれども、私は医療関係の仕事をしているのですが、小児科へ行ったりすると、こういう紙媒体のものを置いていると、お母さん方が見ていたりするので

す。

また、PTAをやっている、いつも「すぐー」配信で送る学校もあれば、先生の裁量で紙媒体を配付しているところもあるので、うまい具合にさせていただけるといいのかなと思います。

私自身も現役で子どもを育てる世代として思うのは、やはりお母さん、お父さんがとっても忙しくて、インターネットといっても、皆さんもそうだと思うのですけれども、好きなものしか見ないのですよね。ですから、こういうものは興味がないとなかなか目に留まらないのです。

やはり、親子で話す機会にもなるかと思うので、紙媒体も含め、こういうことは積極的に行っていくのがすごくいいのかなと思いました。

○菊地会長 ほかにご意見はございませんか。

○朝倉委員 2ページの22番の親子料理教室の開催ですが、私たちは食育のボランティアをしております。今、札幌市内10区に840人ほどおりまして、主に夏休みや冬休みを中心に、親子の料理教室を開催しております。

ここずっと行っているのですけれども、やはり最近は共働きの家庭が多いということで、夏休みでもご両親が働きに出ているので、人数を集めるのがとても大変です。これは10区で行っているのですけれども、意外に苦戦しております。

これは札幌市のウェルネス推進課からの業務委託と、もう一つ、別のところからの親子の料理教室がありまして、大体、10区を合わせて3回程度ですから、30回近く行っているのですけれども、その30回の中で、今、働いているお母さんたちに、平日に親子で参加していただくことがとても大変にはなっております。

そこで、何か工夫ができないかと私たちも考えてはいるのですけれども、今まで、ここ何十年も行っている事業ですから、そのまま行っております。

それでも参加して下さった方の中には、リピーターもいらっしやいまして、毎年、小学生の間、参加していただけたということもあったりするのです。

お野菜と減塩を中心に、なるべく子どもたちもつくりやすいような簡単なレシピを考えながら作成していて、参加された後には、「本当はこの野菜は嫌いなのだけれども、今日はちゃんと食べているよ」、また、知り合いの方などからも、「家でももう一回つくってみて、とっても喜んで食べていたよ」というようなうれしいお言葉も聞くのですが、今のこの状況の中で、親子の料理教室というものはなかなか難しいところに来ているのかなと思っております。

○菊地会長 ただいま、親子料理教室の難しさと、いろいろ工夫されている点についてお話をいただきました。

コメントがありましたら、お願いいたします。

○吉田委員 先ほど朝倉委員から親子の教室は大変だというお話が出ましたけれども、私たちも親子の教室を開いております。牛乳・乳製品料理と魚料理などで、夏休み、冬休み、土曜日に開催し、今年も土曜日と夏休みに1回ずつ開催したのです。

やはり、人集めがなかなか大変です。ただ、魚に関しては、これからはサケ料理をするのですけれども、川に出た魚と海にいるサケなどをずっと並べて、そして、それを解体して一緒に料理をつくるのですが、子どもたちの目の輝きが非常にすばらしいのです。子どもたちは、魚一匹を見たことがないのですね。この間も、最近是非常に手に入りにくいホッケで教室を開いたのですけれども、私たちはもう本当大変ですから、毎年、ちょっとどうかなという話が出るのですが、子どもの目の輝きを見たら、やはりやらざるを得ないというか、最後はやってよかったねとなるのです。

そして、先日は、インターネットで申し込んでくださいと言ったら、応募が非常に少なかったのです。ですから、これからは、やはり電話、ファクスという古いものも使って受付しようということになっております。

とにかく、お父さんもお母さんもすごく熱心で、子どもは「すごく楽しかった」と言って帰っていきました。そんなことが励みになって、続けております。

○菊地会長 札幌市消費者協会の吉田委員からのコメントをいただきました。皆様のご苦労やご経験などを出していただきました。

質疑応答の時間はまた次にもございますので、次の議題に移らせていただきます。

では、続きまして、議題（１）のイの令和８年度食育事業計画についてご説明をお願いいたします。

○事務局（佐々木食育・健康管理担当係長） ウェルネス推進部ウェルネス推進課食育・健康管理担当係長の佐々木でございます。

令和８年度の食育事業についてご説明いたします。

スライドもございますが、お手元の資料４がスライド資料になっておりますので、併せてご覧いただければと思います。

新しく委員になられた方もいらっしゃると思いますので、札幌市の食育推進計画についてご説明させていただきます。

札幌市は、現在、第４次札幌市食育推進計画を推進しております。

計画期間は令和５年度から令和９年度で、基本理念は、「食を通して豊かな人間性を育みます」としています。

基本目標１は、生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進です。

市民が生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育むために、ライフステージやライフスタイルなどの多様な暮らしに対応し、切れ目のない食育を推進することが大切です。

基本目標２は、食の循環や環境・安全を意識した食生活の推進と食文化の継承です。

食料の生産から消費に至る食の循環への理解を促進し、食に対する感謝の心を深めていくことが大切です。

基本目標３は、食育推進体制の整備です。

食育を推進していくためには、行政機関だけではなく、教育関係者や食品関連事業者、企業、団体など様々な関係者が主体的かつ多様に連携していくことが重要です。

第４次札幌市食育推進計画は、市民が健やかで豊かな食生活を送ることができるよう、家庭、学校、保育所、職場、地域などで食育を進めていくための指針としており、行政だけでなく、関係団体・企業等と連携して推進することとしております。

また、札幌市の最上位計画である第２次札幌市まちづくり戦略ビジョンの重要概念の一つとして、ウェルネス（健康）を掲げ、誰もが生涯健康で、学び、自分らしく活躍できる社会の実現に向け、様々な具体的事業を実施していくこととしています。

ウェルネス推進部では、「ウェルネス何スル？」を合言葉に取組を展開しており、四つの健康行動の一つとして、食生活を「タベル」と表して計画を進めております。

それでは、今年度の取組について、ライフステージ別に、まず初めに、乳幼児期から学童期の取組についてご説明させていただきます。

公立保育所、認可保育所や認定こども園等の関係施設に向け、子ども未来局保育推進課からは、啓発資料等の情報提供を行ったり、各施設では、お便りによる啓発や調理室の見学・食育窓の活用、給食・食材の実現展示、給食レシピの紹介など、給食を活用した食育の実践が行われています。

市内小・中学校等においては、給食便りや学校ホームページ、給食を通じた食育の取組のほか、学校農園や地域の農業者との連携による農業体験や交流等を行い、取り組んでいるところです。

また、食を通じた健康づくりのボランティア団体、食生活改善推進員の協力の下、先ほどもご説明にございましたが、全ての区で親子料理教室の開催をしております。

こちらレシピ集をお配りしているところですが、「札幌市お弁当プロジェクト」は、思春期に当たる世代を中心とした食育の推進を目的に、平成２７年度より継続して開催しております。

今年は９月７日、来週の月曜日までレシピを募集しております。

昨年度、お弁当レシピコンテストに参加した生徒へのアンケート調査の結果では、応募者の約８割が、プロジェクトを通じて健康や栄養への意識の高まりなど、食生活に対する意識変容が見られたと回答しております。

若い世代への確かな食育啓発の場として機能していることが実証されていると考えています。

レシピ集は、お手元に資料5として配付させていただいております。

次に、朝食欠食や野菜摂取不足といった食の課題が多い若い世代に向けた取組である「本気（まじ）めしプロジェクト」は、今年度も各区で様々な教育機関等と連携し、栄養講話や調理実習の実施、ベジチェックや資料を活用した啓発などの実施が予定されています。

保健所保健管理課では、事業所の社員食堂などの特定給食施設に対し、栄養管理への助言や食育に関する情報提供を行い、働く世代に向けた支援を行っています。

また、ショッピングモールをはじめとする商業施設やイベントにおいて、推定野菜摂取量測定器、ベジチェックを活用した取組も、働く世代をはじめとする幅広い世代に向けて継続して行っております。

高齢者を対象とした取組としては、低栄養や口腔機能の低下、オーラルフレイルの傾向等のハイリスクの方を対象に、個別相談会や個別の電話相談、訪問を実施しています。

また、介護予防センターで行われている介護予防教室の機会を利用した低栄養予防のための「すこやか食育支援事業」を食生活改善推進員協議会の協力の下、実施しているほか、「さっぽろウェルネスパートナー協定」締結企業による高齢者対象セミナーの開催支援などを行っています。

ここからは、課題に向けた取組や食育推進体制の整備についてご説明させていただきます。

野菜摂取量が特に少ない若い世代と働く世代をはじめとする無関心層に向けたアプローチの一つとして、8月の野菜摂取強化月間に併せ、市内の大型ビジョンや区役所のモニター等で「1日3回ベジだべさ!」という1日3回食べようという標語を基に作成しました動画をデジタルサイネージ等で放映しました。

昨年は、画面右側にある静止画の放映でしたが、今年度は動画を作成しましたので、ご覧いただきたいと思います。

〔動画上映〕

○事務局（佐々木食育・健康管理担当係長） 動画は、パルコやポールタウンの大通側出入口にあるH I L O S H I など市内の大型ビジョンに加えて、イオンモールやラルズ、東光ストア、ホクレンショップ等大型スーパーのデジタルサイネージでも放映していただきました。

このほか、「とくとく健診」をカナモトホールの会場で8月、10月、12月、2月に実施する際に、待ち時間等でも活用しています。

札幌市の公式SNSを活用し、幅広い世代への情報発信を行っています。

こちらは、6月の食育月間、8月の野菜摂取強化月間に行ったLINEとXの投稿画像で、紹介しているレシピは、本日、お手元に資料6、資料7として配付をしております。

LINEは登録している方に送られてくるということで、興味・関心のない方でも、これをきっかけにレシピを見ていただけるかなと思っています。

「地産地消・健康料理フェスティバル」は、市民の健康意識と適切な食事摂取への関心を高めるとともに、食の安全や衛生等について啓発すること、札幌及び北海道産の食材を使用した料理を紹介し、地産地消を推進することを目的に、札幌市調理師団体連合会と札幌市の共催により開催しています。

写真は昨年度の様子ですが、大変ご好評をいただいているイベントで、参加者は毎年抽選により選考しています。

昨年度はそば料理がテーマでありましたが、今年度は洋風料理をテーマに、10月26日に札幌プリンスホテル国際館パミールにて開催を予定しております。

計画の取組を実効性のあるものにするため、札幌市では、市民運動としての展開を重視しています。

食を通した健康づくりを推進するボランティアである食生活改善推進員や、札幌市の食の課題を学び、食のイベント等で活躍している食育学生ボランティアの育成などは、市民運動としての発展を図るための取組の一つです。

先ほどご意見もいただきましたが、企業と協働する食育サポート企業等、通称「さつモグ食育応援団」も、市民運動としての風土を醸成するための取組です。

札幌市の食育情報の発信や地域、食育ボランティア、各種団体等の活動を支援する企業等、工場見学やセミナーなどの体験機会の提供、栄養成分の表示、食品衛生や環境に配慮するな

ど、自ら食育活動を行う企業等に登録していただいております。

今年度の取組のご説明の最後は、「札幌市健康・栄養調査」です。

7月27日から8月17日までの期間で調査を実施し、現在、その集計作業を行っているところです。調査結果につきましては、次の会議にて皆様にご報告をさせていただく予定であります。

令和8年度事業につきまして、ウェルネス推進部や各区保健福祉部の取組を中心に説明させていただきました。

今後も、地域や関係機関・団体、企業との連携・協働を図り、心身の健康を支える食環境を整備し、無関心層を含めた効果的な食育推進のため、助言していただけますと幸いです。

私からは以上でございます。

○菊地会長 続きまして、議題（1）のウの取組紹介をご説明いただいた後に、委員の皆様からのご意見やご感想をいただきたいと思っております。

それでは、本日は、北区の取組の紹介をお願いいたします。

○事務局（本間主査） 北区健康・子ども課の本間と申します。

それでは、北区の食育の取組についてご報告させていただきます。

令和7年度の当区の取組のうち、特に北区食育推進ネットワークの協働で実施した事業について二つご報告させていただきます。

まず、北区食育推進ネットワークについて簡単にご紹介いたします。

設立は平成24年です。

目的としては、区民一人一人が健康的な食生活を実践できるよう、地域の食に関わる機関や団体が情報を共有し、それぞれの取組の充実と新たな食育の展開を図るため、北区食育推進ネットワークを設置するとなっております。

構成団体はそちらに記載があるとおりですけれども、区内の保育園、幼稚園、小学校、中学校、学校栄養教諭、北区健康づくり協議会、北区食生活改善推進員協議会、札幌サンプラザ、北区商店街連絡協議会、子ども未来局としてちあふる・きた、そして、健康・子ども課が構成団体となっております。

こちらの取組を二つご紹介いたします。

まず一つ目は、「北区オリジナル食育ランチョンマット事業」についてです。

この事業は、子どもの頃から望ましい食習慣を身につける区民を増やすことを目的とし、北区のオリジナルランチョンマットを作成、活用して、子どもから高齢者までバランスのよい食事、特に、主食、主菜、副菜をそろえて食べることについて啓発を行うものです。

こちらの事業は平成22年から開始しておりまして、ブラッシュアップをしながら、現在も継続しています。

ランチョンマットの種類は、対象の年代に合わせて4種類があります。

活用にあたっては、ネットワークの皆様にご協力をいただき、幼児から高齢者まで広く区民に啓発を行っています。

こちらが、その4種類になります。左上が幼児用、右が子ども用、それから、小学5年生用、大人用となっております。

幼児用のランチョンマットの活用についてご紹介します。

こちらは、区内に保育園、幼稚園、認定こども園が全部で83園ありますが、事前にランチョンマットの活用の意向を聞きまして、約7割に当たる60園から活用希望があり、計2,054枚を配付しています。そして、それぞれの園で、いい方法で活用いただきました。

現在のデザインは、ネットワークの皆様にご意見をいただきながら作成したものです。幼児でも分かりやすいように、イラストがメインのランチョンマットとなっております。

また、幼児用のランチョンマットの活用後に、各園の先生方にアンケートを取っております。

食育ランチョンマットが園児の主食、主菜、副菜をそろえた食事の実践に役立つかの問いに対しては、85%の方から「役立つと思う」との回答をいただいております。

それから、どのように活用しましたかという活用方法については、ランチョンマットについて「園児に説明をして家庭に配付した」が一番多かったです。次が、「園での給食時間に使用

した」というものでした。

子どもに説明をして家庭に配付をしたという方法が多かったことから、昨年度からは家庭用の説明資料も作成しまして、このランチョンマットと一緒に配付しております。

その中には、主食、主菜、副菜を置く場所があるのですが、例えば、カレーライスのようなものであったり、一品物は、これが全部入っているのも真ん中に置いていいのですよといったようなことも含めて説明しています。

使ったときの園児の様子については、興味を持って、喜んでいる姿が見られたという意見が多く寄せられました。また、給食時間に使用した園については、園児がお皿を置く場所を確認しながら配膳をしたり、食事バランスを意識することにつながったとの声もありました。それから、保護者からの意見につきましては、ランチョンマットをきっかけに、家庭で食事バランスを話題にしたり、考えるきっかけになったとの声がありました。

幼児期は、保護者の食に対する意識がお子さんの食生活に強く影響を与えることから、保護者にもこのランチョンマットを知っていただき、家庭で活用していただくということは、効果的に食育を進めることにつながると考えております。

こちらは子ども用のランチョンマットです。

小学校の栄養教諭の先生方と連携して、令和7年度は3校で220枚を活用していただきました。主に給食試食会等でお話をするときに使っているというふうに聞いております。また、食生活改善推進員協議会が主催の親子料理教室、それから、子どもお楽しみ会等でも配付をして啓発を行っています。

次に、こちらが大人用のランチョンマットです。

当課が主催するマタニティ教室のほか、地域で行う健康教育、高齢者の食育教室、高校の家庭科の授業の中で配付するなど、若い世代から高齢者まで様々な事業で配付を行い、主食、主菜、副菜がそろったバランスのよい食生活の啓発に使用しています。

次に、こちらが小学校5年生用のランチョンマットで、これは令和6年度から活用を開始しまして、布でできたものになります。

小学校5年生の授業の中で、主食、主菜、副菜のそろったバランスのよい食事について勉強するということで、令和7年度は区内の全ての小学校5年生に配付をしまして、各学校の中で、家庭科や食育の授業の中等で活用していただきました。

このデザインについては、区内の若い世代、高校、専門学校生、大学生から公募をしまして、選考会を開催して決定しました。

応募した若者からは、デザインをつくるに当たって、これまでは食事のバランスを考えたこともなかったけれども、このデザイン考案をきっかけに自分の食事について考えるようになったとの声がありました。

こちらが小学校で活用している様子になります。

また、授業の前後で児童に、知識、意識の変化を見るアンケートを実施しております。こちら8割の小学校から回答をいただいております。

アンケートの結果です。

授業前に、「主食、主菜、副菜をそろえて食べようと思う」が64%であったのに対し、授業後は81%と、バランスのよい食生活をしようという意欲が上がっていました。

また、クイズとして、「どの食品が主食、主菜、副菜に当たりますか」と質問していますが、どの項目についても正答率が上がっておりまして、知識、意欲どちらも向上しておりました。

こちらは、児童の自由記載の部分を幾つか拾い上げたものです。

「食事のバランスをもっと大切にしようと思った」、それから、「これからは給食で使ってみようと思った」、また、「今までは野菜が多ければいいと思っていたけれども、授業を受けてみて、野菜が多いだけでは駄目だということが分かった」等の感想がありました。

ランチョンマット事業のまとめです。

このように、令和7年度のランチョンマット事業では、幼児から高齢者まで、北区の5,432人に対して、ランチョンマットを活用した主食、主菜、副菜をそろえたバランスのよい食事について啓発を行いました。

北区食育推進ネットワークの協働により、同じツールを使い、各ライフステージにおいて、それぞれの対象の特性に応じた方法や切り口で、繰り返し健康的な食生活について啓発することにより、育っていく中で知識が定着し、より効果的な啓発となることを期待しています。

今後も、このネットワークが一丸となって、北区民の健康のため、この事業を展開していきたいと考えております。

取組の二つ目です。「ヘルシーサマーフェスタ」を開催いたしました。

こちらは、ネットワークの団体である北区商店街連絡協議会を中心とする実行委員会が開催する「ノースロード24フェスタ」という大きな夏祭りで同時開催ということで、野菜摂取を啓発するパネル展、体験型のイベントを開催しました。

札幌サンプラザの前で大きな夏祭りを実施していきまして、こちらのフェスタは、札幌サンプラザのロビーで行っております。

夏祭りを目的に来た方々についても、ぜひこのフェスタを見ていただき、野菜摂取の意識を改革していただきたいということで、お祭りと同様開催いたしました。

当日の様子は、こちらの画像のとおりです。

ネットワークの協働としては、札幌サンプラザには無償で会場をお借りしました。それから、北区商店街連絡協議会には、同時開催の連絡調整をしていただきました。また、栄養教諭の皆様、幼稚園、保育園の皆様には、ブースを出していただいたり、展示物を提供していただきました。それから、健康づくり協議会、食生活改善推進員協議会の皆様には、スタッフとして活動いただきました。

右上が保育園の食育教材の展示ですけれども、こちらにも実際に保育園で使っている食育教材を貸していただきまして、来場の皆様は、それを手に取りながら、主食、主菜、副菜はこんなのだねというようなことを楽しまれていらっしゃいました。

こちらにも来場者に簡単なアンケートを取っているのですが、毎食野菜を食べようと思うかの問いには、イベント参加前は61%の方が「食べようと思う」と回答していたのが、イベント参加後は80%に増えていきまして、野菜摂取意欲の向上に寄与するイベントになったと考えております。

本日、北区食育推進ネットワークの事業について、二つご報告させていただきました。

やはり、区だけで事業を行うのではなく、ネットワークの協働で食育を進めることにより、より広く多くの方に啓発ができるということ、それから、それぞれの対象のことをよくご存じの方から食育に取り組んでいただくことで、効果的な形で行うことができるのではないかと考えております。

今後も関係団体のつながりを深め、区民の健康のために食育推進事業を展開していきたいと考えております。

これで、北区の取組についての報告を終わります。

○菊地会長 令和8年度の食育事業計画及び北区での取組紹介について、何かご質問やご意見などをいただきたいと思います。

○岡村委員 今の北区の取組は、すごくすばらしいと思いました。ふだんも栄養指導などを行っているので、それが効果にも表れていることは、すごくすばらしいとお聞きしていました。

令和8年度の事業計画の中で紹介されていましたが野菜摂取強化の取組のことと合わせて言わせていただきましたかったのですが、まず、動画はやはり目を引いていいなと思いました。これをご覧になる働く世代の方というのは、子育て世代で、ご両親にも当たるので、注目していただくことは、ある意味、すごくいいのかなと思いました。

ここからは私が栄養指導しているところでの実感ですけれども、私も野菜の摂取目標量350グラムというものがあましてねという話をするのですが、ほとんどの方が、1日で350グラムといっても、なかなかイメージしていただけないので、お子さんは、昼は給食、朝は時間がないということで、せめて夕飯だけでもこれぐらい食べられるといいよねということで、夕飯だけでもというイメージで提案するようにはしているので、そういう工夫もしていただけるのかなとは思いました。

先ほどの主菜、副菜というお話について、私はお母さんとの面談が多いのですが、お母さん

方とお話をしていると思うのは、主菜と副菜は小学校5年生に家庭科で習うというお話は、たしか、私もそれぐらいに習ったような記憶があるのですが、主菜と副菜を意識されている方は、少なくとも肥満外来にいらっしゃる方はかなり低いと思います。自分がつくっている食事のどれが主菜でどれが副菜なのかが分かっていらっしゃる方が多くて、指導の中で少しずつ調整をしていったりしています。少なくとも、肥満外来に来るお子さんは野菜がかなり嫌いで、そうすると、タンパク質がすごく多いというアンバランスな食事になることが多いのです。

もう一つは、偏食が強いお子さんも結構いらっしゃるのですが、かなり極端な偏食の方の中には感覚過敏を持たれている方もいて、そういう方々のお母さん方は結構諦めてしまって、もう野菜を出さないというお家も多いのです。

ただ、感覚過敏に関しては、びっくりするぐらい少ない刺激から少しずつ増やしていくと感覚過敏が緩和されることも結構あるので、最初はびっくりするぐらいちょびっと口に入れよう、何なら、口に入れてすぐ出してもいいからというところから始めると、1年後ぐらいに結構食べられるようになっていっているお子さんも多いのですよね。

そういうこともあるので、諦めないで食べ続けてほしいというのをいつもお母さん方にお話ししたりしています。

主菜、副菜が分からない、野菜とほかの食材とのアンバランスさについて、ふだん栄養を指導されている先生方にご意見を伺えればよいなと思いました。

○菊地会長 今、主菜、副菜に関して、また、お母様方に対する指導についてのコメントをいただいた次第です。

北区の紹介でもございましたので、もし可能でしたら、北区の小学校の校長でもある札幌市小学校校長会の高橋委員からご意見をお願いいたします。

○高橋委員 小学校で見ていての意見というか、状況をお伝えできたらと思います。

ご紹介のありましたランチョンマットは、本校でも大いに活用させていただいております。

当校も栄養教諭がいるのですけれども、とてもいいものだというふうに私にも話をしてくれておりました。

お話にあったとおり、5年生、6年生の家庭科で、食の分野については、5大栄養素やご飯、みそ汁の調理の基礎、それから、6年生の最終では、1食分の主食、主菜、副菜をバランスよく考えた献立を考えるというところまで、小学校では家庭科で学習いたします。

それと併せて、栄養教諭が教育課程にも入れながら、野菜の摂取の大事さや牛乳のこと、地産地消、季節の行事食、よくかむことなど、年間を通じて子どもたちに身につけてほしいことを指導しております。

給食に関しては、本当にすばらしい食育の素材で、給食カレンダーといって、PTAのお母さんだったらご存じかもしれないのですが、日めくりで毎日、主菜、副菜、主食が分かるようなものを栄養教諭がつくっていて、それを子どもたちも毎日確かめてから給食を食べるという取組をしております。それで、小学生のうちは、学校では主食、主菜、副菜を意識しながら食べております。

また、給食便りは、保護者に啓発ということで、毎月お配りさせていただいている次第です。

そのように、小学校段階では、食指導、家庭科を通して、子どもたちに望ましい食の知識や技能をつけて、実生活に生かしていくことが大事だと思いますので、保護者とも連携を図りながらやっているところです。

本当に、各分野の皆様と連携を図りながら、子どもたちの健やかな成長を支えていければなと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○菊地会長 もし可能でしたら、北海道技術・家庭科教育研究会の福井職務代理者からコメントをお願いいたします。

○福井職務代理者 私は、先ほどの議題（1）で挙げたお弁当レシピの話を行います。

実は、私は、去年まで義務教育学校という小学校と中学校がくっついている学校に勤めていて、このレシピ集を見ていて、たまたま前の学校の生徒のレシピが載っていたので、ああ、なるほど、すばらしいなと思ったのです。

前の学校の話をしていただきますと、前の学校は、小学校と中学校がくっついた学校だったので、食育に絡めて、自分たちで畑でつくった作物を調理するというような教育課程もありました。小学校1年生から中学校3年生、1年生から9年生までを六つのグループに分けて、4月から8月までの間、自分たちで決めた野菜を育てて、それを最後に、収穫祭といって、カレーライスとオリジナルのポテトサラダをつくるようなことを教育課程で行っていたのです。

あわせて、お弁当レシピコンテストのレシピ集は9月7日が締切りと言っていましたけれども、夏休みにぜひやってみようということで、家庭科の教諭が中学校2年生、8年生に課題を出して、ほぼ全員出すというような取組をしまして、それが成果となったのかは分かりませんが、今回、載っている子がいたのです。前の学校では、そんな取組をしていました。

今の中学校では、なかなか難しいのですが、自分たちで育てた野菜を使って料理するという経験は、やはり食に関する知識や関心がすごく高まるなど実感しました。

さらに、その前にいた学校でも、家庭科の教諭がこのお弁当レシピコンテストに関心を持っていて、夏休みにやってみようというような形で取り組んでいました。

ですから、私たちの教育研究会でできることとすれば、今、夏休みに課題を出すのがなかなか難しいところもあるのですが、市内の家庭科を担当している先生に、こういうコンテストがあるという啓発から、やはり食に関心を持ってもらうことではないかと思いました。

給食については、小学校とほぼ一緒のような形で中学校も実施しているのですが、教科としてできることとすると、こんなことがあるのかなと、今、つくづく感じました。

○菊地会長 今、畑で食材を育てるお話も出ましたが、食品流通の現場として、札幌市中央卸売市場協会の片貝委員から、もしコメント等がありましたらお願いいたします。

○片貝委員 市場協会の片貝です。いつもお世話になっております。

市場は業務施設ということで、市民の方が食を扱う現場をなかなかご覧いただけない構造になっているのですが、市場協会といたしましても、積極的に市民の方の見学を受け入れております。事業報告の中にも出てきているかと思うのですが、食育を目的に、お子さんたち、小学生の皆さんを受け入れて、ふだんは入れない競り売場や仲卸売場を見ていただいて、食品がどういうふうに使われているか、あるいは、市場の中に併設しています調理教室に来ていただいて、トウモロコシを生やゆでて食べたり、リンゴを皮つきやむいて食べたりして、同じ食材でもいろいろな味がするよねと実感していただく事業をしておりまして、大変好評です。

食育というのは、食育基本法を読んでも、食育とは何だという定義が実は何も書いていないのです。そういう法律は珍しいのですが、それぞれの立場でいろいろ食育に携わる、例えば、栄養、料理法、私どものように生鮮食品の普及、もしかしたら、老化の防止など、すごく多方面から入ってこられる概念が食育だと思います。私どもは卸売市場という立場で貢献しているつもりですが、こういう場にお伺いして、いろいろなご見識やご高見を伺いたいと思っています。

○菊地会長 まだまだお聞きしたいところはあるのですが、次の議題に移らせていただきたいと思います。

それでは、食育に関わる国の動向と、次期札幌市食育推進計画の策定について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（中澤食育・健康管理担当係長） それでは、次期札幌市食育推進計画の策定についてご説明いたします。

資料10の第5次食育推進基本計画の概要、続きまして、資料11の次期食育推進計画の策定スケジュールのご用意をお願いいたします。

初めに、資料10からご説明させていただきます。

現在、国では、食育基本法の改正と、それに基づく第5次食育推進基本計画が今年度公表されております。

なぜ、今、食育基本法が改正されて、第5次食育推進基本計画がつけられたのか、その背景となる改正の内容や計画のポイント、そして、国の動きを受けた次期札幌市食育推進計画の策定スケジュールについてご説明させていただきます。

それでは、資料10の3ページ目、スライド5の参考1をご覧ください。

この5月に公布、施行されました食育基本法の一部改正でございますが、初めに、背景として、「1前文の改正」をご覧ください。

食育基本法が制定されて約20年が経過しまして、この間、世帯構成の変化や新型コロナウイルスの発生、食料品の物価高騰など、食を取り巻く環境が大きく変化しているところでございます。

食育基本法が平成17年にできた当初は、主に子どもの健やかな育成や健康づくりが中心でしたが、今は、栄養の偏り、不規則な食事、生活習慣病の増加、消費者と生産者との関係が薄くなっている、少なくなっているなどの問題が指摘されています。

続きまして、食育基本法の一部改正の主なポイントを三つに絞ってご説明させていただきます。

2の総則の改正の一つ目ですが、食料安全保障について記載されております。

世界情勢の変化や異常気象により、食料の安定供給が大きなテーマとなっております。

私たちがいつも食べている食料がどのように届いて、将来にわたって安定して行える生産や流通、生産者の皆さんがこれからも安心して農業などを続けていけるように、必要なコストが正しく含まれた価格に理解を示すことが食料の安定につながるのではないかとということが追加されています。

これは、昨年度の令和の米騒動や食料自給率、地元で取れたものを地元で消費する地産地消に関係するものが記載されております。

二つ目ですが、関連分野との協働による食育の取組拡大です。

こちらは、食育の推進というのは、文化、観光、環境、スポーツといった多様な施策との連携ができると定められております。

三つ目は、総則の改正の4になりますが、大人も含めた食に関する理解醸成・行動変容の促進です。

これまで、食育は、学校や家庭、子ども中心の取組が目立ちましたが、特に若い世代における朝食欠食や野菜不足、栄養バランスの偏りが問題になっているため、職場や大学等も食育の実践の場として位置づけられたものでございます。

第5次食育推進基本計画は農水省で策定しておりますが、戻りまして、資料10の1ページ目のスライド1をご覧ください。

これは、この6月に公表されたものでございます。重点事項と具体的施策についてご説明いたします。

重点事項といたしましては、学校等での食や農に関する学びの充実です。

栄養教諭の配置促進や食生活指導を強化するとともに、子どもたちが農林漁業体験などを通じて食がつけられる現場を知る学びの推進が示されています。

重点事項(2)は、健全な食生活の実現に向けた「大人の食育」の推進です。

先ほどもご意見をいただいたとおり、企業や地域と連携し、主食、主菜、副菜の分かりやすいご説明が必要と思っておりますので、その辺も、より検討してまいりたいと考えております。また、野菜摂取、減塩といった健康的な食生活、食の安全といった基礎知識を大人自ら実践できる環境づくりが示されております。

重点事項(3)は、国民の食卓と生産現場の距離を縮める取組の拡大です。

地場産物や国産食材を選ぶことで、将来にわたって安定して供給が行われるということも示されておりますし、食品ロスを減らす行動など、消費者が生産現場や環境を意識した選択の促進が示されているところでございます。

さらに、国の計画では、個人の実践ではなく、地域で取り組む目標も明確にされております。

スライド2になりますが、大きな3番目で、地域における食育の取組、学校で行うこと、家庭で行うこと、それぞれが示されているものとなっております。

あわせて、スライド3でございますが、第5次食育推進基本計画における目標・指標・目標値が示されております。

これは、より現実的な数値になっておりまして、国の第4次計画では、7割が残念ながら悪化や未達となっております、それを受けて、より現実的な数値となっていると聞いておりま

す。

今後は、策定に当たりまして、国が定めた第5次食育推進基本計画の理念を受けまして、国の施策をそのまま取り入れるのではなく、札幌市にふさわしい食育の在り方、現行の第4次食育推進計画の評価と併せて、より実効性の高い次期計画を策定してまいりたいと考えております。

簡単ではございますが、国の基本計画の概要でございます。

続きまして、資料11をご覧ください。

こちらにつきましては、札幌市の次期食育推進計画の策定スケジュールでございます。

現在の第4次計画につきましては、先ほどご紹介させていただいたとおり、令和9年度までとなっております。次期計画につきましては、令和10年度から14年度までの5年間となります。

全体の流れといたしましては、資料のスケジュール表に沿ってご説明させていただきます。

表の2番目にございますとおり、本日、令和8年度第1回食育推進会議を開催しておりまして、策定スケジュールや概要についてご説明いたします。

年明けの2月でございますが、令和8年度第2回会議を予定しております。ここでは、市長から、計画策定についてご審議をお願いしますという諮問書をお渡しいたしまして、この7月、8月に実施しております「令和8年札幌市健康・栄養調査」の結果の速報や次期計画の骨子案、構成案についてご審議をいただく形になります。

続きまして、令和9年5月ですが、令和9年度第1回会議におきましては、計画の具体像となる素案をご審議いただきます。

同じ年の8月、令和9年度第2回会議につきましては、計画の答申案についてご審議をいただきます。あわせて、第4次計画における令和8年度の取組報告を行います。

なお、委員の皆様の任期は令和9年7月末までとなっております。8月1日より新任期、改選となりますので、事務局としても円滑な引継ぎを意識して進めてまいりたいと考えております。

令和9年9月以降は、2月の市長からの諮問に対して答申手交を行い、市役所内での協議や市議会への説明を進めまして、12月にはパブリックコメントといいまして、市民の皆様からご意見をいただくことを予定しております。

令和10年3月に、完成した食育推進計画を公表いたしまして、4月よりスタートする予定で考えております。

当会議におきましてご審議いただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

食育は、市民一人ひとりの毎日の暮らしに密着した大切な取組となっておりますので、委員の皆様のお立場からのご意見や気づきが札幌市の食育をよりよくする大きな力になりますので、今後ともご審議についてよろしくお願いいたします。

以上でございます。

○菊地会長 ただいま、次期計画の策定について事務局からご説明がありました。

皆様から、ご質問や確認事項などがありましたら、お願いしたいと思います。

まだ発言されていない委員の方から、ご質問、確認事項がございましたら、お願いしたいと思います。

○中岡委員 今の前の議題で、第4次食育推進計画でいろいろ行われていて、また新たに食育基本法の一部が改正するというお話があって、僕は、今回の資料を見たときに、すごく感動したのです。

やはり、札幌市の食育の推進計画があって、毎年関わって出てきていますが、どうやって食育というものが未来につながっていくのだろうか、それを札幌市としてどう取り組んでいくのだろうかというものが、確実にどんどん具現化されています。

例えば、先ほど話されていた小さいお子様から大人にかけて、主菜、副菜について具体的に教えるとのことですが、多分、僕が小さい頃は教わっていないです。ただ、今の世の中では、どうやって教育したら子どもの頃からそういうものに興味を持って大人になるのかを、本当に市全体、国全体で考えられているのだなとすごく感じています。

やはり、これは具体化して続けていくことがすごく大事だということが分かっています。私どもも飲食店を経営しているのですが、それこそ、小学生や中学生が食の勉強会で何人か来ることがあるのです。そのときに、野菜を切るとか食べ物をつくるということと一緒に頑張って勉強するのですが、やはり将来の健康を考えると、栄養バランスを小さいときからしっかり伝えて、教えるということを、大人としてやっていかなければいけないのではないかとすごく感じたというお話をして、終わります。

○菊地会長 ほかに、ご確認事項はございませんか。

（「なし」と発言する者あり）

○菊地会長 現在、札幌市では、計画の取組の効果の評価と市民の現状把握のため、札幌市健康・栄養調査を実施し、集計作業を行っているという伺いました。

今回の会議におきまして、その結果の報告や次期計画の骨子について事務局よりお示しされるとのことですので、委員の皆様のご意見をいただき、次期計画案をまとめていく形で進めさせていただければと思います。

5. その他

○菊地会長 それでは、その他といたしまして、事務局から連絡事項はございませんか。

○事務局（中澤食育・健康管理担当課長） それでは、連絡事項を3点お伝えさせていただきます。

1点目ですが、委員の交代についてでございます。

現委員の皆様には、令和9年7月31日までの委嘱状をお渡ししております。

やむを得ず任期の途中で交代する場合には、お手数ですが、事務局までご連絡をお願いいたします。

2点目ですが、今後のスケジュールでお示ししたとおり、来年2月頃をめどに令和8年度第2回の会議開催を予定しております。

近くなりましたら、日程調整についてご連絡を差し上げますので、お心積もりをお願いいたします。

3点目ですが、先ほど、令和8年度の食育事業計画の中でもご説明いたしました野菜摂取状況が把握できる測定器、通称ベジチェックを出入口付近に用意しておりますので、ご自身の日頃の野菜摂取量を測定し、今後の食生活にお役立てください。約30秒で測定できますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上でございます。

○菊地会長 これで、本日の予定の議題を全て終了いたしました。

全体を通して、ご質問などはありませんか。

（「なし」と発言する者あり）

○菊地会長 ありがとうございます。

今後、次期計画策定に向けて、さらに議論を深めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、事務局にお返しいたします。

6. 閉 会

○事務局（秋野歯科保健担当部長） 会長をはじめ、委員の皆様には、大変活発なご意見、ご助言、ご議論をいただきまして、誠にありがとうございました。

本会議の会議録につきましては、後日送付させていただきますので、ご確認をいただければと思います。

また、先ほど、私どもからも説明をいたしましたが、今年度末の第2回から来年度にかけては、新たな食育推進計画の策定年になります。

食育という取組は、私ども札幌市だけの取組では進めることができない、本当に関係機関の皆様、企業の皆様、団体の皆様、医療関係団体の皆様、学校関係者の皆様、様々な皆様方のお力を得て進めるものでございます。

今日、私が11時半と言ってしまったものですから、会長にも進行を少しせかしてしまった

ような印象もございますが、今日のご意見、ご助言だけではご議論がちょっと足りなかったような雰囲気もございますので、ぜひ第2回に向けて、引き続き様々な活発なご議論、ご助言をいただきまして、次期計画でさらにまた一歩、市民の食育が進むような新たな計画づくりに私ども事務局もしっかり取り組んでまいりたいと考えておりますので、引き続き、委員の皆様の協力をよろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして、令和8年度第1回札幌市食育推進会議を終了いたします。

皆様、本日は、長時間にわたり、ありがとうございました。

以 上